



みんなで育てる 未来のチカラ



これまでの様子

令和8年3月10日 「みんなで育てる 未来のチカラ」を開催！

学校関係者、PTA会員、民生児童委員、NPO関係者、大学生、行政など多様な方と学び合いました

講義 地域と学校の未来を考える～まずは対話から～

「なぜ、今地域と学校の連携が叫ばれているのか」その背景からご講義をいただきました。

また、連携・協働の際の留意点として

- ・ 地域学校協働活動は、手段であって目的ではないこと
- ・ 『ないものねだり』ではなく、『あるものいかし』の視点で考えること
- ・ HAPPY-HAPPYの関係になるようにすること

などがあることをお話しいただきました。

さらには、ウェルビーイングや子どもの参画についてなど、多岐にわたって示唆に富んだお話をいただきました。



岐阜大学
地域協学センター長
益川浩一 様

グループワーク

アイスブレイクとして、2つのアクティビティをしました。
身体を動かしながら、会場が和やかな雰囲気になりました。

その後、KPT法（ケーピーティー／ケプト）を用いたグループワークを実施しました。

まずは、自己紹介も兼ねながら、

「KEEP（今やっている活動 続けたいこと）」

「PROBLEM（課題と感じていること）」をもとに交流しました。

各グループでは、「活動をどのように伝えるか」、「運営に携わる人・利用者をどのように増やしていくとよいか」「子ども、若者への支援をどうするとよいか」といったそれぞれの具体的な課題について意見を交わしました。

そして、「今回のような学習会、つながりづくりの会に参画し、つながりをつくるのが大事」「さまざまなコミュニティがつながることが、子どもの居場所となってもよいのではないか」など、様々な提案がなされました。

最後に、「TRY（これからチャレンジしたいこと）」を一人ずつ発表しました。一人10秒ほどでしたが、それぞれの参加者の熱い思いが込められていました。



アンケート結果

- ・ 益川先生のお話の中で、一方的な支援の関係ではなく双方向からの働き掛け合いの関係、協働を紡ぐ、という言葉が心に残りました。
- ・ 名古屋市の方の子どもに対する熱い思いに感動しました。
- ・ 地域の行事に関わる立場として 実際に行っていることも多いのですがいちばんの悩みは次の担い手が不足していることです。ひとつ感じたことは子どもの積極的な参画を募ること、それは今後の活動につなげたいと思います。
- ・ 学校の先生や地域の方の思いを聞くことができました。様々な活動がしたいと思っている人が多いことにびっくりしたし勇気づけられた。
- ・ 対話の時間がたくさんあり、様々な立場の方々の熱い想いを聞くことができ大きな学びになりました！また、自分の現状、悩み、やりたいことアウトプットしたことで、改めていろんなことをやってきたんだなあ自分自身も見つめ直すことができました。

当日の様子

講義



アイスブレイク



グループワークの様子



グループワークであがっていた意見

- ・ 地域学校協働活動として、何か学校と取り組みたい。
- ・ 子どもがのびのびと遊べる場が欲しい。気軽に遊べる場を見守る大人が必要だなあ...
- ・ 新しい仲間や時代、考え方に温度差があり、話す場を設けないと誤解を生んでしまう。
- ・ 他のボランティア団体、行政、学校とつながることが難しいと感じている。
- ・ 人に思いを伝えるのは勇気があるけど、言わないと伝わらないかもしれない。

会の終了後も、活発に情報交換や連絡先交換をする姿がみられました。

ところで…「地域学校協働活動」とは??

「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」をいいます。

(文部科学省パンフレットより)

例えば、「防災訓練」「授業でのゲストティーチャー」「校外学習の引率」「学習環境の整備」「学校内外のパトロール」などがあります。地域学校協働活動は、子どもたちの社会貢献意識、地域への愛着、コミュニケーション力及び学力の向上、学校の教育水準の向上、負担軽減、活動を通じた地域の課題解決や活性化などの効果があるといわれています。